

第12回 笹川杯 関東少年少女空手道選手権大会 審判監督会議資料

期日：令和5年11月11日(土)・12日(日)

会場：キッコーマンアリーナ

《共通事項》

1. 競技は（公財）全日本空手道連盟空手競技規定及び本大会申し合わせ事項による。
2. 組手競技において、審判員は所属する都県選手の審判を行わない。形競技のR1～R3については同一都県の審判を2名以上入れない。形競技の決勝・三位決定戦については、当該都県審判員以外で構成できない場合に限り、当該都県審判員を各1名ずつ入れて構成する。
3. 赤帯・青帯は全空連検定品を各自用意し着用すること。
4. 監督、コーチは競技中、定められた席に着く。服装は競技規定にそった清潔な白の空手衣を着用すること。大会事務局で用意する監督・コーチ用IDカードを常に見えるよう携帯すること。
5. 選手は競技規定にそった清潔な白の空手衣を着用すること。都県名左胸マーク以外のワッペン(流会派、全少ワッペン)等は全て外すこと。ゼッケンは取れないようにしっかり全周を縫い付けること。
6. 審判長または副審判長の発声による競技開始はそれぞれのカテゴリの最初と決勝戦とし、その他は各コートの主審が行う。組手競技は準々決勝が終わった段階で締め礼を行う。
7. 審判員は原則ブレザー着用とする。正副審判長の同意があればブレザーを脱ぐことができる。その場合、コート主任を通じて各コートへ伝達する。
8. 初戦でのテーピングの使用は認める。その場合、事前に大会ドクターの診断を受け、メディカルカードに記載してもらい主審に申し出て許可を受けること。
9. 審判の手続きに規定違反があった場合、監督またはコーチは拳手のうえ口頭でコート主任に異議を申し立てること。異議申し立ては手続き違反があった時に行うこととし、次の試合に入った場合は受け付けない。
10. 開会式・開始式については最初の競技に出場する選手がコートに整列した状態で行う。審判員も競技開始と同じ位置に整列し、開会式・開始式の後すぐに競技を始める状態とする。
11. ウォーミングアップ会場（サブアリーナ、武道場）は以下の順を目安で使用する。

	サブアリーナ	武道場
開会式前	5～6年生男女	3～4年生男女
5～6年生競技時	3～4年生男女	1～2年生男女
3～4年生競技時	1～2年生男女	
1～2年生競技時	個人戦上位回戦出場者	団体戦出場者

個人戦上位回戦	団体戦出場者	翌日出場者（1日目のみ）
---------	--------	--------------

※ただし、サブアリーナの練習会場は都県ごとに調整可能とします

※武道場には放送が入らず、係員も置かないため、召集に注意すること

12. 選手名の呼出は行わず、モニターの名前の切り替えで選手が入場する
13. 形のエントリーシート、団体組手のオーダーシートは召集所で提出する。形はR 1～R 3まで、使用する形を記載していることが望ましい。

《組手競技》

1. 個人戦・団体戦共通事項

- (1) トーナメント方式で実施、競技時間は1分30秒フルタイムとする。
- (2) 6ポイント差にて勝敗を決定し、その他の勝敗は全空連競技規定に準ずる。

2. 団体戦

- (1) 1年生を先鋒とし、以降は学年順に対戦する。
- (2) 初戦は勝敗が決定していても試合を行い、以降の試合は勝敗が決定した時点で終了とする。
- (3) チームの勝敗は勝者数、同数の場合は総ポイント数、さらに同数の場合は上級生(6年生から)の勝敗を確認し勝利チームを決める。
- (4) 回戦ごとに登録選手の中から選手の交代を認める。

3. 安全具等

- (1) 全空連検定の拳サポーター(赤青リバーシブル)、メンホー(6又は7)、ホディプロテクター、シンガード、インステップガードを装着すること。
- (2) 小学3～6年生男子組手出場選手は、ファールカップを装着することとし、小学1～2年生は所属指導者の判断に任せるものとする。

《形競技》

- (1) 1名で演武し審判員7名による採点方式で行う。
- (2) 各ラウンドで使用できる形は要項の通りとする
- (3) 引き分けの解消は下記を適用する
 - ① 有効点のうち最低点が最も高い者
 - ② 有効点のうち最高点が最も高い者
 - ③ 再試合（それまでに演武した形は使用できない。再試合で使用した形は本戦で使用できる）
- (4) 個人戦のコートへの入場は演武位置まで斜めに入場し、形が終わった後は後方のラインまで下がる。後方のラインで得点を確認し、速やかに退場する。
- (5) 団体戦のコートへの入場は通常通りとする。形が終わった後は後方のラインまで下がる。後方のラインで得点を確認し、速やかに退場する。

以上